

【Vol.16】大人な感じ

どうも、大沼です。

前回に引き続き、今回もペンタのフレーズをやっていきましょう。

vol.15の方にも、ちらっと書きましたが、今回はAOR(アダルト・オリエンテッド・ロック)とされるジャンルの楽曲を事例に、ペンタの活用法を勉強します。

『AOR』というジャンルについては、その名の通り、

”大人っぽい(雰囲気)のロック”

みたいな感じだと思ってもらえればOKです。

このテキストを作るに当たって、wikiで『AOR』という単語を調べてみましたが、この言葉の意味合いは他にも色々あるようです。

まあ、基本的には、若者の音楽の筆頭だったロックを、音楽的に洗練させていったら、なんか”落ち着いた雰囲気の大人数っぽいロックの様なもの”が出来た、という感じではないでしょうか。

この辺りは、音楽ジャンルの進化、進歩、変容だと思うので、色々な人が、色々な事を考え、色々な事をやっていったら、どんどん新しいモノが生まれてくるわけですね。

さて、今回例として取り上げるのは、AOR といったら大体名前が挙がるバンド、『TOTO(トト)』の”Pamela(パメラ)”という曲です。

”パメラ”は女性の名前で、歌っている歌詞の内容は、まあ、ラブソングですね。

AOR というジャンルは、味がわかると中々にハマるので、これをきっかけに、色々聴いてみて欲しいと思います。

夜中にじっくりと、コーヒーでも飲みながら一人で聴いていたりすると、大人な世界に目覚めるかもしれません。笑

それでは、『TOTO』の”Pamela”、早速やってみましょう。

Youtube 原曲リンク

<http://youtu.be/BnCF93vjE3w>

※ライブ映像

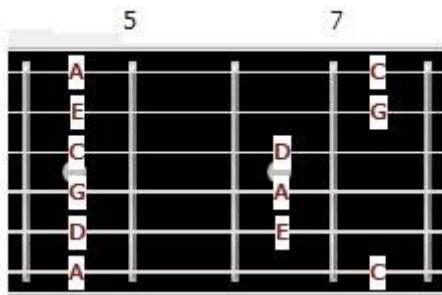
<http://youtu.be/rDEnN-zMcRg>

(※live の方もカッコいいので聴いてみてください。フレーズはアドリブが入っているので、多少違う所が結構ありますが、こちらの方がギターが聴きやすいかもしれません)

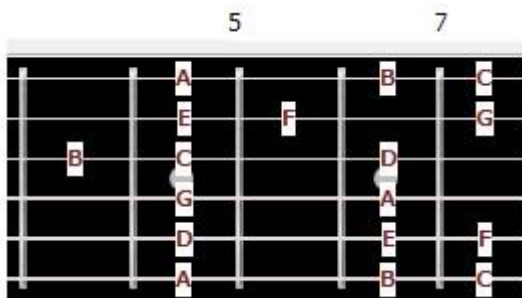
まずは出だし(0:16～)に、ヴォリューム奏法を使ったギターのメロディ弾きがありますね。シンプルなフレーズですし、せつくなので耳コピーしてみましょう。

その場所のコード進行は G⇒C です。

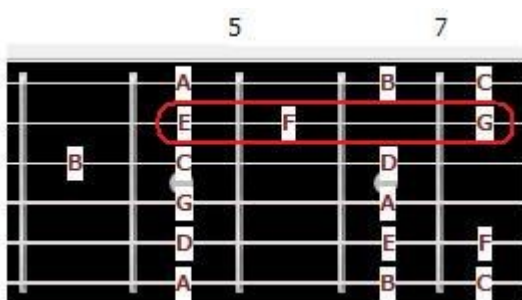
まだこの講座では解説していませんが、key に関して言えば、この曲の出だしは『key=C』なので、Cメジャーペンタのこのポジションを使っています。



もっと正確に言えば、Cメジャースケールの、このポジションで、



この辺りを使って弾いていますね。



メジャースケールについては今後詳しくやっていくので、
とりあえず今の段階では、上の指板図を見ながら両者を弾き比べてみて

・「Cメジャーペンタトニックスケール」と「Cメジャースケール」はどこが違うのか？

その辺りを確認しておいて下さい。

後でメジャースケールをやるときの予習になりますので。

奏法としては、手元(ギター側)のヴォリュームか、もしくはヴォリュームペダルを使って、
チョーキングをしながら、2弦8フレットをピッキングしてすぐに、
『フワッ』とヴォリュームを上げて入ります。

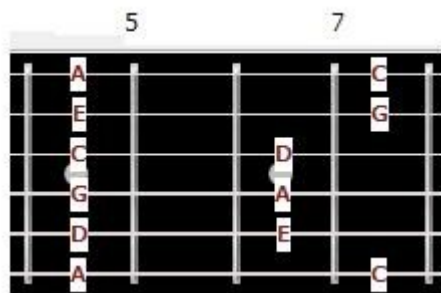
速弾きなどで沢山の音を弾く場合でも、このフレーズのように少ない音で
メロディーを弾く場合でも、結局、大事なことは、
『良い音楽なのかどうか？(良いメロディーなのかどうか？)』という事ですね。

シンプルなフレーズ(メロディー)ですが、実際に音楽としては、
これくらいでも十分だ、という良い例です。

次に、前回のテキストでやったような、ブリッジミュートを使った
ペンタのフレーズを弾いてみましょう。

ここからは、key=C だったのが、key=Am に変わるので、
Aマイナーペンタを使います。

と、言っても、AマイナーペンタとCメジャーペンタは同じポジション(形)でしたね。
なので、さっきのCメジャーペンタと同じポジションで弾きます。



譜例『TOTO』 "Pamela" 0:26～ 風フレーズ

で、このフレーズを弾く前に、1つ確認しておかなくてはいけないものがあります。

それは何かと言うと、小節の頭にある、この記号。

よく見てみると、16分音符と3連符の付いた音符を=(イコール)で繋いでいますね。

これはシャッフルのリズムで演奏しろ、という記号です。

シャッフルとは、例えばブルースを聴いてもらえればわかると思うのですが、『タッカ、タッカ、タッカ、タッカ』とハネるリズムのコトですね。

この曲は、16分音符のシャッフルなので、通常『タカタカ、タカタカ、』という16分のリズムを、『タッカタッカ、タッカタッカ、』とハネて弾いてね、って事です。

まあ、文章で説明されるよりも、曲を聴いた方がわかりやすいと思いますので、その辺りは、原曲を良く聴いて感じをつかんでください。

フレーズとしては簡単そうに見えますが、この微妙な速さのテンポで、キッチリ16分のリズムにはめるのは、中々の技量が要ります。

この様なシンプルなプレイほど、メトロノームと一対一で録音してみると、アラが見えすぎて、自分のレベルがよくわかります。

・自分の出している、音の粒やニュアンスがキチンと揃っているか？

・1音1音のボリュームはイメージどおりにコントロール出来ているのか？

そういったところをチェックしながら、練習してみましょう。

さて、この『TOTO』というバンドは、楽器隊の編成が、ギター、ベース、ドラム、キーボードですね。

前回も少し解説しましたが、楽器の音が沢山入っている時や、曲のフィール(感じ)によっては、ギターの音数をあまり入れないほうが、良い場合があります。

今回の曲は、楽器隊の編成としてはそれなりにパートがありますが、そこまで沢山の音が同時に鳴っているわけではありません。

そして、曲のリズムフィールが軽快です。

軽快なリズムの時に考えられる、ギターのプレイはカッティングですが、そういう感じでもないですよ？

(※試しに Am7 とかでカッティングをしてみると、あんまり曲にハマらないことがわかると思います)

コードをジャーンと鳴らしている部分もありますが、それはバンド全体でのリズムのキメの部分ですよ。

楽曲としては、大半のパートで、比較的、静かめにしてある曲です。

こういう時にギターとしては、ブリッジミュートを軽くかけたペンタ(と言うか単音)のリフは、良く使いますのでこの様なプレイも覚えておきましょう。

もう1つ、練習の提案として、今回の譜例の進行の中では、Am ペンタ内の音であれば、どこの音を鳴らしても大体曲(コード)に合います。

16分シャッフルのリズムに合わせて、譜例と同じようなブリッジミュートの単音プレイで、自由にフレーズを作って弾いてみてください。

きっと楽しいと思います。笑

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼